


















# 令和5年度国際理解ワークショップ 進行シート

令和 5年 7月 26日作成

大学名： 新潟大学

タイトル： ここがちがう！ここがおなじ！～日本と世界の学校生活～

## 1. 本ワークショップに関連するSDGsの目標に○印をつけてください。

○印	SDGs17の目標	○印	SDGs17の目標	○印	SDGs17の目標
	 ① 貧困をなくそう		 ⑦ エネルギーをみんなに そしてクリーンに		 ⑬ 気候変動に 具体的な対策を
	 ② 飢餓をゼロに		 ⑧ 働きがいも 経済成長も		 ⑭ 海の豊かさを 守ろう
○	 ③ すべての人に健康と 福祉を		 ⑨ 産業と技術革新の 基盤をつくらう		 ⑮ 陸の豊かさも 守ろう
○	 ④ 質の高い教育を みんなに	○	 ⑩ 人や国の不平等 をなくそう	○	 ⑯ 平和と公正を すべての人に
	 ⑤ ジェンダー平等を 実現しよう		 ⑪ 住み続けられる まちづくりを		 ⑰ パートナーシップ で目標を達成しよう
	 ⑥ 安全な水とトイレを 世界中に		 ⑫ つくる責任 つかう責任		

## 2 : 本ワークショップの要旨

様々な文化背景を持つ人が共に暮らすためには、お互いの文化を理解し、尊重することが必要である。ここでは、児童生徒たちに身近である学校生活に焦点を当て、移民が増え、グローバル化が進み、日本の学校に通う異文化の子どもが増加している現在において、文化の違いやあるいは共通点に注目することで相互の文化理解に繋げ、児童生徒たちと一緒に共生について考えていく。

## 3 : 本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

他国の生徒の学校生活と、日本の生徒たちの学校生活とを比較し、同じ点やあるいは同じ意味を持ちながらも違う形態として生活に表れているものについて学ぶことで、多文化圏で生活している人々も自分たちと同じ側面を持つ人間であるという意識を持ってもらう。また、自分たちとは全く違う文化について目を向け、その文化を持つ同世代の子どもたちと学校生活内において共生する場面を想定してもらうことで、異文化共生へのハードルを下げ、身近なものとして感じてもらう。

## 4 : 本トピックをとりあげる理由

令和4年末現在における中長期在留者数（注1）は278万6,233人、特別永住者数は28万8,980人で、これらを合わせた在留外国人数は307万5,213人となり、前年末（276万635人）に比べ、31万4,578人（11.4%）増加した。（出入国在留管理庁、2023）

また、国際教育の意義に関して、国際化が一層進展している社会においては、一人一人が国際関係や異文化を単に理解するだけでなく、国際社会の一員としての責任を自覚し、どのように生きていくかという点を一層強く意識する必要がある。求められているのは、個人が相互理解に基づく多文化共生という視点を持ち、国家の枠組みを超えた国際社会の一員として自己を確立し、発信を行い、主体的に行動できる人材である。（文部科学省、2005）

このような情勢において、これからの社会をいずれ担っていく児童生徒たちに対して本ワークショップを行うことで、多文化共生に対する抵抗を減らし、共生社会の一員となっていく自覚を持ってもらいたいという理由において、このトピックを取り上げた。



		ができない。①赤を6枚、黒を4枚集める、②黒を4枚、赤を6枚集める、③JQKを全て集めるの3種類の指示) ④一分間話さずにその通りのカードを集めてもらう ⑤そのあとお互いの指示を開示しあう			
--	--	--	--	--	--

<p>展開：承 ( 15 分)</p>	<p>いくつかの国の学校生活や、日常生活について、テーマごとに比較してみたい。</p>	<p>日本の文化と違うところを箇条書きでまとめて紹介する。</p> <p>その文化に絡めたクイズも行う。</p>	<p>異文化の学生の生活について、違う点について理解してもらおう。</p>	<p>プロジェクターでパワーポイントを映して説明する。</p>	
<p>発展：転 ( 10 分)</p>	<p>ムスリムの児童が日本の学校に来た時に抱える困難について考えてもらおう。</p> <p>また、考えてもらった困難について、どのように解決するのかを話し合ってもらい、発表してもらおう。</p>	<p>周囲の人と、どのような問題が考えられるか、どうしたら解決できるかについて考え、話し合ってもらおう。</p> <p>今回は特に昼食時を取り上げて場面設定する。</p>	<p>学校生活で異文化をもつ生徒が転入してきたという状況を想定することで、異文化は自分から遠いところにあるのではなく、身近になりうるものだという実感を持ってもらおう。</p>		

<p>まとめ：結 ( 5 分)</p>	<p>私たちから、振り返りとまとめを話す。</p>	<p>外国との関わりが増加し外国人も多く入国してきている現在、日本にはたくさんの異文化を持つ人々が生活しています。その人たちや文化に皆さんが触れたとき、少しでも抵抗が少なくなるようにと思い、今回のワークショップを計画しました。少しでも、異文化がみなさんにとって身近なものになっていけばうれしいです。</p>			
-------------------------	---------------------------	---	--	--	--

#### 6：会場のセッティング（対面の場合のみ）

5～6人程度のグループに児童を分けて（全部で6グループ）、それぞれで机を合わせた状態にしてください。

#### 7：使用する教材

準備していただきたいもの

スクリーン

プロジェクター

こちらで準備するもの

トランプ3セット

パソコン

#### 8：参考にした資料

出入国在留管理庁(2023). 令和4年末現在における在留外国人数について Retrieved from [https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13\\_00033.html](https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00033.html) (2023年7月27日)

文部科学省(2005). 初等中等教育における国際教育推進検討会報告 ー国際社会を生きる人材を育成

するために－ 第1章 国際教育の意義と今後の在り方 Retrieved from [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/026/houkoku/attach/1400594.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/026/houkoku/attach/1400594.htm) (2023年7月26日)

## 9 : その他